

## 労働図書館新着情報

## 今月の10冊

<p>① 福田順著『コーポレート・ガバナンスの進化と日本経済』京都大学学術出版会 (xi+213頁, A5判)</p> <p>昨年、著名企業のコーポレート・ガバナンスに関する不祥事が相次いで発覚した。大王製紙の場合、支配株主である元会長と少数株主との間に「エージェンシー問題」が生じていたという。本書では、1990年代以降の日本の株主構成がどのように変化したのかを米独との国際比較等により分析、雇用調整や配当政策、買収防衛策への影響を明らかにしている。</p>	<p>⑥ 宮本みち子著『若者が無縁化する』筑摩書房 (214頁, 新書判)</p> <p>若者問題に造詣の深い著者が若者を孤立させない方法を提示。ニートになった若者の半数近くが人間関係で問題を抱えている一方、ニート状態にもかかわらず、就職を希望しない若者(非希望型ニート)は低学歴、低所得家庭出身者に多い点に注意すべきと主張。若者を受け入れるコミュニティと自立を保障する社会システムの構築が必要と述べている。</p>
<p>② 佐藤博樹著『人材活用進化論』日本経済新聞出版社 (xi+295頁, A5判)</p> <p>日本型雇用処遇制度の何が残り、何がかわるのか。本書は、日本の特徴である長期雇用は今後も維持されるとしつつも、コア人材は減少、外部労働市場依存型人材活用との組み合わせが不可欠としている。業務内容・勤務地限定の正社員や多様な就業形態、労使関係にも言及、企業の人事管理における選択と適応による進化の実態を実証的に追究している。</p>	<p>⑦ 片桐恵子著『退職シニアと社会参加』東京大学出版会 (viii+260頁, A5判)</p> <p>定年年齢を迎えた後の人々を指す言葉である「退職シニア」。本書では、こうしたシニアの社会参加をアンケートとインタビューにより分析、「サクセッフル」な高齢期を探っている。結果として、長寿社会にはなかったものの、「残りの人生をどう生きればいいのかのモデルがない」「豊かな人的資源であるシニアを活用できていない」などの問題点を指摘。</p>
<p>③ 森和昭他著『日本人はなぜ海外で通用しないのか?』日経BPコンサルティング (222頁, 四六判)</p> <p>副題は「国際競争力向上のカギはグローバル人材の育成にあり」。著者は、日本企業の競争力低下の真の理由は、人材採用、評価・育成のプロセスにあると強調。「明確な採用基準がない」「職務遂行能力というあいまいな基準で人材を評価する」などのマイナス面を克服するため、欧米諸国のような透明性の高い評価基準を導入すべきと述べている。</p>	<p>⑧ 西村周三監修『日本社会の生活不安』慶應義塾大学出版会 (xvi+304頁, A5判)</p> <p>本書は、国立社会保障・人口問題研究所が実施した「社会保障実態調査」の結果に基づき、個人や家族が直面する生活困難の実態を多面的に分析。「自助」努力のみでは克服できない要因の存在を指摘する一方、社会保険に未加入・未納である者の急増から「公助」の衰退を訴えるとともに、家族の助け合いによる次代の「共助」のあり方を展望している。</p>
<p>④ 大山博著『福祉政策の形成と国家の役割』ミネルヴァ書房 (vi+332頁, A5判)</p> <p>少子高齢化による年金問題や介護問題における世代間の根深い不均衡、グローバル化によるリスクの拡大などにより、日本の福祉政策全体が揺らいでいると指摘。問題解決に向けて、英国の福祉モデルなどを参考にしつつ、「規範理論の重要性」「福祉政策における利己心と利他心の両立の必要性」「社会的企業の法制度化」などが求められると説く。</p>	<p>⑨ 西山昭彦著『西山ゼミ就活の奇跡』プレジデント社 (189頁, 四六判)</p> <p>東京女学館大学の西山ゼミの就職内定率は、95.4%という驚異の結果を引き出している。就活をゲームと位置づけ、考える力、見える力、自分が動く力の重要性を強調。成否を決める自己認識力、自己表現力、現場対応力等の「6つのチカラ」を紹介、ゼミ生の就活奮闘事例で発揮した力を検証し着目点を提示している。採用担当者へのインタビューも掲載。</p>
<p>⑤ 谷沢英夫著『スウェーデンの少子化対策』日本評論社 (v+173頁, A5判)</p> <p>イクメンという言葉が浸透し、男性の育児参加が目立ってきた日本。しかし、男性の育児休業取得率が70%台のスウェーデンに比べれば、まだ緒についた段階だ。本書は、スウェーデンがいかに少子化を克服してきたかについて、歴史的経緯を踏まえながら家族政策と男女均等政策を中心に分析。出生力回復促進策などユニークな政策にも言及。</p>	<p>⑩ 藤本修著『職場のメンタルヘルス』ミネルヴァ書房 (xiii+191頁, 四六判)</p> <p>うつ病患者が100万人を超え、自殺者が14年間3万人を超える日本。本書は、精神科医として労働者のメンタルヘルスに長年取り組んできた著者が、職場で発生する心の病について豊富な事例をあげて解説。うつ病の場合、病気に対する正しい理解と休養、薬物療養が必要と主張、回復期にはカウンセリングなど精神療法が重要であると訴える。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

## 主な受け入れ図書

(2012年7-8月労働図書館受け入れ)

① 国吉空著『徒然にメンタルヘルス』日本生産性本部生産性労働情報センター (115頁, 文庫判)	② 森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店 (286頁, A5判)
③ 三木英他編著『日本に生きる移民たちの宗教生活』ミネルヴァ書房 (xiv + 296 + iv頁, A5判)	④ 野口悠紀雄著『製造業が日本を滅ぼす』ダイヤモンド社 (xix + 291頁, 四六判)
⑤ 田沼肇全活動・著作集編集委員会編『田沼肇全活動』日本評論社 (255頁, A5判)	⑥ 高田亮爾著『現代中小企業の動態分析』ミネルヴァ書房 (ix + 249頁, A5判)
⑦ 尾形健著『福祉国家と憲法構造』有斐閣 (342 + v頁, A5判)	⑧ 藤訪茂樹著『コミュニケーション・トレーニング』経団連出版 (202頁, A5判)
⑨ ハイン・ケッツ他著『ドイツ不法行為法』法律文化社 (xxi + 398頁, A5判)	⑩ 武川正吾著『政策志向の社会学』有斐閣 (xiv + 340頁, A5判)
⑪ 神田秀樹著『会社法』弘文堂 (x + 386頁, A5判)	⑫ 菊池馨実編『社会保険の法原理』法律文化社 (vi + 255頁, A5判)
⑬ 『倒産と労働』実務研究会編『概説倒産と労働』商事法務 (xiv + 320頁, A5判)	⑬ 野瀬正治編著『変化する労働社会関係と統合プロセス』晃洋書房 (v+215頁, A5判)
⑭ 神前禎他著『国際私法』有斐閣 (xii + 375頁, 四六判)	⑭ 古市憲寿著『絶望の国の幸福な若者たち』講談社 (301頁, A5判)
⑮ 近藤健児他編著『現代経済理論と政策の諸問題』中京大学経済学部附属経済研究所 (viii + 178頁, A5判)	⑮ ヒュー・ローダー他編『市場と労働の教育社会学』東京大学出版会 (viii + 354頁, A5判)
⑯ 沖公祐著『余剰の政治経済学』日本経済評論社 (x + 209頁, A5判)	⑯ 渡辺峻編著『女子学生のためのキャリア・ガイダンス』中央経済社 (iii + ii + 134頁, AB判)

## 労働図書館(資料センター)

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書136,000冊、洋書29,000冊、和洋の製本雑誌25,000冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(280種)、洋雑誌(120種)、紀要(480種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、日本経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特にILO(国際労働機関)総会の議事録やOECD(経済協力開発機構)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 東京都練馬区上石神井 4-8-23

開館時間: 9:30 ~ 17:00

休館日: 土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始(12月28日~1月4日)、その他

電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659

利用資格: どなたでも自由に利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです

※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください

レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています